

PGR 雑感

40数年前、プロペラ機での可能高度テストで、1万mの上空を飛んだことがある。太平洋と日本海を同時に見て、地球の円さを知り、海・山・森・河川・湖・町そして田畑の美しさを感じ、機上で食べた握り飯の美味しかった事は忘れられない。この緑と食糧を守る仕事の一つに縁ができ、また最近、専門家の執筆による絵本「自然の中の人間シリーズ」を読んで、農薬なるものの使命をつくづく感じている。

さらに、如何に科学が進歩しても、土と水と空気は人間生活の基本であることを常に認識する次第である。とはいえ、その科学の進展は、40年前の地球を、人間生活を大きく変えた。バイオは、その最たるものである。

海外メーカーの人々と話をしていると、例えば米国で農薬の66%を占める除草剤と、今は4%しか占めていないPGRとに、開発の関心の高いことが窺われる。このPGRは、日本では農薬の1.3%、46億円の市場である。海外では市場性を求め、大豆・とうもろこし・麦といった作物の収量増大、品質改良を目指したPGRの開発が、将来をにらんで進められている。当然、バイオ技術が取り入れられているようである。

特異的な作用を持ち、現場の要求する場面に劇的に効果のあるPGRでも、今は限定的にしか考慮されていないが、しかし将来、緑を守り食糧を供給するための不可欠の農薬の一つになることは確かである。こういうPGRを持つことは、私にとっても切願するところである。

〔財団法人 日本植物調節剤研究協会理事
塩野義製薬株式会社取締役動植物開発部長 瀬島基太郎〕

目次 (第20巻第1号)

第20巻第1号の刊行によせて…………… 2

＜日本植物調節剤研究協会長 杉 穎夫＞

農薬の土壤微生物に及ぼす影響——除草剤と微生物相を中心に——…………… 3

＜東北大学農学研究so 佐藤 匡＞

1. はじめに…………… 3

2. 土壤中の微生物相——細菌相
を中心に——…………… 4

2-1. 土壤中の微生物相、とくに細菌相の変化をめぐる…………… 4

2-2. 微生物、とくに細菌の種の識別をめぐる…………… 6

3. 部分殺菌効果…………… 7

4. 農薬と土壤微生物相…………… 8

4-1. 土壤微生物数の変化…………… 8

4-2. 土壤微生物相の変化…………… 13

5. 農薬の連用と微生物相…………… 16

オウトウの裂果防止について…………… 19

＜山形県立園芸試験場 佐藤康一＞

1. 裂果の発生原因…………… 20

2. 裂果の防止法…………… 21

3. おわりに…………… 23

世界の農耕地雑草とその調査研究(9)
——シソ科(1)——…………… 24

＜宇都宮大学 竹松哲夫・一前宣正＞

昭和60年度リング用除草剤・生育調節剤試験成績概要…………… 35